

若林区南材地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 12 月 13 日掲載)

南材地区は、市の中心部に近く、地区の西側には清流広瀬川が流れ、藩政時代には商業の町として栄え、今もその名残の町名（南材木町・南染師町・河原町等）が数多く残っています。5,200 世帯・27 町内会を民生委員・児童委員 18 名（主任児童委員 2 名を含む）で担当しています。

指定避難所としての南材小学校、福祉避難所としてのコミュニティセンターがそれぞれ災害時の拠点となっています。幸い当地区は震災による被害も少なく、多くは家具・家電の転倒、食器類の破損でした（後に、建物罹災判定で全壊、大規模半壊の判定を受けた建物で、行政の支援で解体された家屋が多数ありました）。

震災発生後、民生委員は「災害時要援護者」、「ひとり暮らし高齢者」の安否確認に追われました。訪問した際には、困っていることを聞き出し、それを取りまとめて区の災害ボランティアセンターに協力を依頼しました。多くの世帯から転倒した家財や散乱した食器類の後片づけの支援要請が寄せられ、災害ボランティアを派遣していただき、大変感謝されました。

指定避難所には、地区の避難者のための備蓄品（アルファ米・乾パン・水・毛布等）が保管されています。震災当夜、避難所には収容しきれないほどの避難者が殺到してきました。その数 1,200 名で、4 割近くは帰宅困難者が占めていました。あまりにも想定外の出来事に関係者一同慌てふためいた次第で、備蓄品の枯渇が一番心配されました。この震災を契機に備蓄品のあり方が検討されることになりました。

民児協はいま、「孤立者」の防止に取り組んでいます。そのひとつとして「サロン」への参加の呼びかけを行なっています。地区社協では月 1 回、ひとつの会場でサロンを開催していますが、参加できない高齢者が多く、その解消策として、単位町内会でも「サロン」の開催を連合町内会にお願いしています。多くの会場で開催されることによって、参加者が増えることで孤立者をなくしたいと考えています。

「絆」、「助けあい」、「地域力」。いい言葉をたくさん耳にしました。南材地区民児協はこれらの言葉どおり、地域に根ざした活動に努めたいと考えています。